

子ども・子育て支援事業計画の個別進捗状況について

事業名	具体的事業内容	担当グループ	事業量、目標達成予定年度	27年度実績	事業達成度	事業の評価、改善事項等	課題、今後に向けての改善事項等	今後の事業方針	事業方針の内容（未実施・廃止・中止の理由、追加・拡大の内容）
1 地域における子育てへの支援									
（１） 地域における子育て支援サービスの充実									
1-1-1 子育て支援サービスの充実									
地域子育て支援センター事業	乳幼児の保育に関する相談に応じ、必要な情報の提供及び助言を行うとともに、子育てサークルへの支援等を行う。	児童支援	1カ所	1カ所 延8,485人利用	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	満3歳で就園する子、各園の未就学教室に通う子も多くなり、前年度より利用者が減ってしまう。	親子で楽しく過ごせる場、行事の見直しや、新しい行事なども増やすなど、親のニーズにあった開放を行っていきたい。	継続	
エンゼルサポート120	2歳未満の乳幼児を育てている子育て世帯を応援するため、おむつ用ごみ袋を支給、申請は1回。月5枚を基本に最高120枚を支給。	保健福祉		支給137人 15,670枚	A 事業内容を達成した（100%）	おむつ用ごみ袋を支給することにより、子育て世代の経済的負担の軽減が図られた。	今後も継続的に実施することにより経済的負担を軽減し、子育て支援を図っていく。	継続	
1-1-2 子育て情報提供、相談体制の充実									
子育てガイドブック発行	保育サービスや公共施設、保育所、公園などの子育て関連情報を親や地域に的確に提供する。	児童支援	28年度、内容改訂し発行予定	内容の改訂準備	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	平成28年度に内容を改訂し発行する。	子育て中の方々に、役立ててもらえるよう配布する。またホームページの改訂も行い活用してもらう。	継続	
インターネットによる子育ての情報提供	保育サービスや公共施設、保育所、公園などの情報を携帯電話やインターネットを利用して親や地域に的確に提供する。	児童支援		実施	A 事業内容を達成した（100%）	行事等を町HPに載せたりして情報提供を行っている。		継続	
しゃきとプラザの活用	プレイルームを子育て中の親の居場所や相談の場として有効活用する。	保健福祉		プレイルーム利用数 1,253組 延べ人数 3,032人	A 事業内容を達成した（100%）	子育て中の親子の居場所や交流の場として活用されている。	施設、備品等の計画的な更新	継続	
地域子育て支援センター事業	乳幼児の保育に関する相談に応じ、必要な情報の提供及び助言を行うとともに、子育てサークルへの支援等を行う。【再掲1-1-1】	児童支援							
子育てカレンダーの配布	町民全体が子育てを応援するという観点から、31編の標語を掲載した日めくりカレンダー（通年使用可）と、子育て関係の行事や緊急連絡先等を記載し、第1子の新生児訪問時に保健師を通じて母親に配布する。	社会教育		平成27年度 260部作成	A 事業内容を達成した（100%）	社会教育活動奨励員との協議によりカレンダー掲載内容の見直し（事業の統廃合に伴う修正加筆、新規施設等の情報掲載）を行った。地域の方々が本町全体の子育てを応援しているという観点を立ち、今後も保健師を通じて配布を継続したい。	日めくりカレンダーとして第1子を出産した母親へ配布しているが、今後はカレンダーの標語等を町ホームページへ掲載するなど、幅広い世代に向けた情報提供を進める。	継続	
びほろっ子プレイカイドの配布	主として小学生を対象とした体験事業の紹介、また事業実施に伴う参加者募集の情報を毎月1回（月初め）に広報誌として配布する。	社会教育		月1回発行 別に年間行事予定発行	A 事業内容を達成した（100%）	社会教育関係グループやその他子どもの事業の周知について確実に行えている。ただし、近年子どもに関する事業が多く紙面の工夫が必要となっている。	今後も子どもの事業の情報紙として継続的に発行を行っていく。さらに、紙面の工夫により充実を図っていききたい。	継続	
（２） 母子の健康確保及び増進									
1-2-1 母子保健の充実									
妊婦の健康支援	安心・安全な妊娠出産ができるよう妊婦一般健康診査にかかる費用を助成するとともに交通費を助成することにより母体・胎児の健康確保を図る。	保健福祉		助成128人	A 事業内容を達成した（100%）	妊婦一般健康診査にかかる費用を助成し妊婦及び胎児の健康管理の充実、経済的負担の軽減が図られた。	妊娠届け出時に喫煙率が高い傾向がわかり改善にむけて妊婦に啓発していく。	拡大	・妊婦一般健康診査にかかる費用に加え、出産のための通院にかかる費用を助成する。 ・産後1か月健康診査を受診するための費用を助成する。

事業名	具体的事業内容	担当グループ	事業量、目標達成予定年度	27年度実績	事業達成度	事業の評価、改善事項等	課題、今後に向けての改善事項等	今後の事業方針	事業方針の内容（未実施・廃止・中止の理由、追加・拡大の内容）
子育て世帯禁煙サポート事業	子育て世帯の喫煙者に対する禁煙を推進し、たばこの害から妊婦・子どもの健康を守る。禁煙治療費の2分の1を助成する（上限1万円）	保健福祉		助成3人	A 事業内容を達成した（100%）	禁煙の必要性は理解しているが、実際に治療を開始する人が少ないのが現状である。	母子健康手帳交付時や乳幼児健診、各種イベント等で事業の周知を行う	継続	
新生児等訪問指導	新生児と保護者を対象に発育や発達に関する相談、育児相談、健診や予防接種の説明などを行う。	保健福祉		119件	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	家庭訪問により、母子の健康の保持増進、育児不安の軽減に努めた	育児不安をもつ母親への支援を継続する	継続	
乳幼児相談	健やかな子どもを育てるために、母親の相談に応じ、乳幼児の健康保持増進を図り、育児を応援する。	保健福祉	12回	12回	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	保護者の相談に応じるなど、乳幼児の健康増進と育児不安の軽減を図るよう支援した	子どもの発達や育児不安を抱える保護者に対する支援は、個々に合わせた丁寧な対応が必要となる。	継続	
乳児健康診査	発達の著しい乳児に対し集団健診を実施し、異常の早期発見、離乳食指導、育児指導を行い、乳児の健康保持・増進を図る。	保健福祉	12回	12回	A 事業内容を達成した（100%）	出生数の減少により、4か月と10か月健診を同時に実施することとした。同時に健診をすることで混乱はなかった。	育児教室などの育児支援サービスや家庭訪問など、健診後のフォローも必要時実施する	継続	
1歳6か月健康診査	運動機能、精神発達、聴覚などの異常の早期発見、助言、育児・栄養・歯科指導を行い、幼児の健康保持・増進を図る。	保健福祉	9回	10回	A 事業内容を達成した（100%）	回数を増やすことで、1回の受診数にゆとりができ、保護者に対して丁寧に対応することができた。	育児不安や発達に心配をもつ保護者が増えており、育児教室や訪問等で健診後も必要な支援を継続する	継続	
発達支援教室	ことばの遅れや多動など、幼児期における発達やかかわりについて、小集団の親子遊びのなかから学ぶ。	保健福祉	2回	2回	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	保護者が児の特性を理解し、児に合わせたかかわりを学ぶことができた。親同士の交流のなかから育児状況について共有することができた。	教室終了後も発達支援を受けたいという保護者のニーズが多い。	継続	
3歳児健康診査	幼児期における疾病、視聴覚の異常、精神・運動の発達遅滞児などの早期発見を行い、幼児の健康保持・増進を図る。	保健福祉	9回	10回	A 事業内容を達成した（100%）	回数を増やすことで、1回の受診数にゆとりができ、保護者に対して丁寧に対応することができた。	育児不安や発達に心配をもつ保護者への対応を丁寧に行っていく。保育園などと連携し、未受診者に対する働きかけや状況把握に努める。	継続	
5歳児相談	集団生活を行う中で築かれる社会性の発達、自己統制力の発達の確認を行い必要な支援を図る。	保健福祉		13回	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	家族や関係者が児の特徴や対応方法について理解することができた。支援機関につながったケースもある。	就学に向け、関係機関との共有や引き継ぎの機会を増やしていく	継続	
移動総合相談	専門機関による発達遅滞児の相談、発達状態の確認、福祉制度実施のために必要な判定の機会の確保を図る。	保健福祉	8回	8回	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	児童相談所の職員による発達相談を実施。福祉制度の実施のために必要な判定の機会を提供できた。	今後もこども発達支援センター等と連携しながら、相談・支援していく。	継続	
1-2-2 食育の推進									
食育学習機会の提供	夏休みなどを利用した親子調理教室の開催やレシピなどの情報提供、食生活に対する学習機会を提供する。	保健福祉		小学校児童対象 食育教室 2回 20人	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	各料理教室は定員に近い参加を得た。親の学習機会については子育て支援センターにおけるポスター展示等の普及啓発や健康教育で情報提供できている。	引き続き、しゃきっとプラザにおける料理教室の開催や子育て支援センターへの情報提供を継続する。	継続	
地産地消の推進	安心・安全な食材の提供を目指し地産地消に取り組む。	学校給食	美幌産米の使用 収穫時～毎月1回 美幌産野菜使用	美幌産米の使用 収穫時～毎月1回 美幌産野菜使用	A 事業内容を達成した（100%）	目標を達成することができた。	今後も継続して取り組む。	継続	
子どもチャレンジクッキング	料理を通して地元産物と考えとともに、生活で必要な基礎的な技術を習得する。	社会教育		年2回実施 (7月・2月) 延35名出席	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	参加対象となる子どもたちに本事業の存在が定着しつつあることが大きい。定員に近い申込もあり、事業の目的を対象者に伝えることができた。	調理内容の幅を広げて事業内容を工夫するなど、関係団体とさらに協議を行い事業を充実させたい。	継続	
1-2-3 思春期保健対策									
思春期保健対策の充実	思春期の身体を守る正しい知識と情報伝達のため学校等と連携をとり、学習機会や相談体制の充実、医師・保健師の講座を開催する。	保健福祉		小学生164人	A 事業内容を達成した（100%）	学校と連携しながら、薬物・喫煙について健康教育を実施できた。	今後も実施継続に向けて学校と連携していく	継続	
薬物、喫煙防止等活動の推進	薬物乱用や喫煙防止のための教育、指導活動を推進する。	保健福祉		小学生164人	A 事業内容を達成した（100%）	学校と連携しながら、薬物・喫煙について健康教育を実施できた。	今後も実施継続に向けて学校と連携していく	継続	

事業名	具体的事業内容	担当グループ	事業量、目標達成予定年度	27年度実績	事業達成度	事業の評価、改善事項等	課題、今後に向けての改善事項等	今後の事業方針	事業方針の内容（未実施・廃止・中止の理由、追加・拡大の内容）
1-2-4 産婦人科医療対策									
産婦人科医師対策（助産師相談の充実）	産婦人科医師の確保に最大限に取り組む。助産師によるきめ細やかな相談体制の充実。	町立病院	(27年度)	未実施	E 着手できなかった	産婦人科医師が配置されるまでエントリネットで対応している状況。	全国的な課題であり困難なことではありますが、引き続き産婦人科医師の確保に努めたい。	継続	
妊婦エントリネット 119	事前に妊婦情報を届出・登録されると、緊急性があると判断したときに出産予定医療機関へ、救急車を出勤させて妊婦を搬送する。	消防署		登録72名うち、搬送1名	A 事業内容を達成した（100%）	制度の認知度および登録率は高い傾向にあり、妊産婦の不安解消に寄与している	安心・安全なお産を提供できるよう、救急隊員の周産期ケアに対する研修の継続と手技等の向上・維持に努める。	継続	
（3） 家庭や地域の教育力の向上									
1-3-1 学習機会の充実									
家庭・地域の教育力向上のための学習機会の充実	各自治会の活性化を促し、「人材」の掘り起こしと蓄積を行い、地域ぐるみの見守りの力を向上させる。	社会教育		教育資源リストとして情報集約し学校に配布	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	情報更新が停滞していた人材リストについて運用を含め見直しを行った。今後多様なメニュー展開ができるよう情報の収集が必要。	学校との連携により人材の活用にも力をいれ取組を進める必要がある。また、人材リストの名称なども検討しより活用できるものとしていきたい	継続	
家庭教育学級の開設	町内2幼稚園を核として、子育てにおける今日的課題における母親同士の交流機会を提供。各幼稚園の保護者が主体的に計画を立案し、実施・運営していく。	社会教育		全12回 延べ838名参加	A 事業内容を達成した（100%）	意欲的な保護者役員による運営により予定していた事業をほぼ実施することができた。学習の中から自主的なサークル活動が生まれるなど新しい展開もみられた。	共働き世帯が増えてきており、配慮したり予定していた事業を必要とする。また、託児の要望が多くなっておりボランティアの調整を行うと共に、託児に関する一定の基準を設けるよう検討する。	継続	
1-3-2 子どもの生きる力の育成									
コミュニティスクールの充実	事業・イベントの開催・運営主体に地域住民が参画し、取り組む。異年齢のふれあう機会につながり、経験や伝統、知識等を子どもたちに伝えるための体験機会となる。	社会教育		3小学校区で開設	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	各校区で主体的な取り組みを進めていただいた。各小学校区を中心に地域の子どもは地域で育てるという意識の醸成につながっている。	事業内容の充実を社会教育Gと情報交換をしながら進める。	継続	
子ども参画行事の推進	事業・イベントの開催・運営主体に小中高生が参画し、取り組む。	社会教育		高校生対象に随時	C 一定程度実施できた（50%）	高校生リーダーつみきサークル事業を中心にリーダー層の育成を行い、様々なイベントに参画するきっかけを作ったが、会員数が減少しており、対策が必要である。	美幌高等学校との連携により、高校生のリーダーを安定的に養成していけるように調整を行っていく。高校生への呼びかけ方法を検討すると共に、学校行事・テストと活動の重複を避けるよう年間スケジュールを作成し、継続実施する。	継続	
子どもちょっと体験教室	職業体験など社会性に留意した体験活動の機会の充実を目指し、自ら進んで興味・関心を持ち、体験できるような新鮮で意義あるプログラムの提供を行う。	社会教育		列車乗車体験1回 参加者28名 大工体験 参加者11名	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	社会生活に密着したものである「列車」の乗車体験を実施すると共に、職業観を育む目的から「大工」体験を実施し、社会性に留意した取組をすすめることができた。	列車の乗車体験は今回で8回目となるが依然要望が高く継続すると共に、他の公共交通機関における実施も検討する。その他職業観を養う体験も継続していきたい。	継続	
おもしろキッズ共和国	参加対象である小学生自らがプログラムを立て実施。自発性を促し、様々な体験活動に興味・関心を抱く子どもの育成を図る。	社会教育		全9回 延べ242名参加	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	異年齢のグループにより、自分たちでプログラムを考え実施する取組を実施することができた。	9回の実施はプログラム間に時間が少なくしっかりと組み立てたプログラムと必ずしもならなかった。実施回数と内容の見直しが必要である。	継続	
（4） 児童の健全育成									
1-4-1 青少年健全育成活動の推進									
放課後児童健全育成事業(学童保育所)	保護者が、昼間就労などにより保育ができない小学生の児童を対象に、適正な遊び及び生活の場を与え、児童の健全育成を図る。	児童支援	3カ所 (27年度) 150人	3カ所 148人 (最大在籍時)	A 事業内容を達成した（100%）	共働き家庭など、保育が出来ない児童の預かりを実施出来た。	小学6年生までの受入について（場所）	継続	
わんぱく教室	親と子のふれあいを深め、参加者相互のコミュニケーションを図る。	社会教育		未実施	E 着手できなかった			廃止	平成27年度以降、主管サークルの解散に伴い事業を廃止した。
びほろっ子ワクワク通学合宿	異なる学校や学年の子どもたちが、親元を離れ、1週間ほど集団で宿泊しながら学校へ通学することにより、異年齢の集団活動や生活体験活動を行う。	社会教育		5泊6日で実施 9名参加	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	青少年育成専門推進員、生涯学習推進員の協力により、学習サポートの体制を作りあげることができた。参加人数が定員に対して半分程度であったことが課題である。	参加者募集については、複数回に分けて周知協力により、子どもたちの変容をとらえるためのアンケートの実施を行い、他の事業も含め参考としていく。	継続	

事業名	具体的事業内容	担当グループ	事業量、目標達成予定年度	27年度実績	事業達成度	事業の評価、改善事項等	課題、今後に向けての改善事項等	今後の事業方針	事業方針の内容（未実施・廃止・中止の理由、追加・拡大の内容）
おもしろ科学の祭典 inびほろ	自然科学の不思議さ、楽しさなどを体験するとともに、子どもから大人まで科学実験を通して、互いにふれあい、人と人とのつながりの大切さを感じ取る機会とする。	社会教育		年1回 298名参加	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	東陽小学校で実施し、小学校のPTAからも協力をいただき科学のたのしさと人々との交流を実施することができた。実行委員の減少が課題である。	実行委員会の構成メンバーが減少傾向にあること、事前の会議・準備の人数不足が課題となっており、広く声かけをすると共に、様々な機関・団体に協力を呼びかけていきたい。	継続	
子どもチャレンジクッキング	料理を通して地元産物を考えるとともに、生活に必要な基礎的な技術を習得する。【再掲1-2-2】	社会教育							
子ども対象サークル開設講座	マナビティーセンター利用サークルの主管により、親子や子どもの体験の場を拡充するとともに、地域人材と子どもがふれあう機会を作る。	社会教育		4組8名	C 一定程度実施できた（50%）	親子陶芸教室を実施したが、その他は実施に至っていない。親子で体験できる事業をサークルと連携し実施していきたい。	子どもたちにとって有益な事業となるように、夏休みや冬休み時期に手工芸の事業を実施するなど、サークルと連携し取り進めていきたい。マナビティーセンターを利用しているサークルへの呼びかけを強化し、実施し事業数の増加へむけて協議を進める。	継続	
キッズカルチャークラブ	土曜日の休日を活用し、地域人材による子どもの体験活動の機会を拡充する。	社会教育		4団体指導 延240名参加	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	文化的な体験について土曜日を活用し提供する事ができている。	新規内容のクラブ開設に至らなかったことから、マナセン利用サークルを中心に開設の奨励を強化していきたい。	継続	
学校週5日制に伴う学校開放事業「サタ☆スポ」	学校週5日制に伴うスポーツ活動の場を提供する。スポーツの楽しさを理解してもらいスポーツの日常化を図る。	スポーツ振興	市街3小学校 年5回 各館定員なし	年4～5回 美小 70名 東陽小 37名 旭小 82名	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	土曜日の休日に体育館を開放し、子ども達の主体性を持った活動を行うことができた。	地区によっては、利用人数に差が生じており、参加者増加に向け周知を工夫する必要がある。	継続	
高校生短期交換留学	美幌高校とケンブリッジ高校の相互交換留学を実施し、語学修得と学校間交流を促進する。	まちづくり	1回 定員 2名	1回 定員 2名	A 事業内容を達成した（100%）	異文化体験を通して、交流推進と人材育成が図られた。また、留学事業を広く町民に知ってもらうため、留学期間中に生徒が撮った写真を使用し、パネル展を行った。	更なる交流推進と語学習得を深めるため、留学期間を今よりも長くする必要がある。	継続	
田んぼの学校推進事業	農業農村整備事業で整備した農地と土地改良施設への理解を深め、人材育成、都市と農村の交流、人間と自然の共生につなげる。	耕地林務	定員 50名	年4回実施（田植、観察会、稲刈、収穫祭） ・子供69名参加 延123名参加	A 事業内容を達成した（100%）	水田や水路、ため池などを、遊びと学びの場として活用し、自然と人との関わりを学ぶことができた。	新規参加者の拡大。	継続	
みどりの森 親子ふれあい農園	親子が仲良くふれあいながら専門家の指導のもと年間を通して農園で農作物づくりを体験する。	みどりの村 振興公社		平成26年度で終了	A 事業内容を達成した（100%）			廃止	事業の役割は終わったとの判断により平成26年度を以て事業終了
みどりの森 元気の森事業	元気の森を活動エリアとして、子どもとその保護者などの大人たちにより、乳幼児から児童・生徒、大人にまで森林体験の楽しさの普及啓発を図る。	みどりの村 振興公社		炭作り森林散策21名・赤ちゃん誕生記念植樹18組63名	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	炭作り森林散策で樹木の看板設置を行った。赤ちゃん誕生植樹は、植栽箇所に限りがあるためあと数年しか実施できない。	事業実施にあたっての事前準備等に携わるスタッフの不足。関係団体等との事業連携。	継続	事業内容の検討が必要
教育専門相談	児童生徒の悩み、家庭での教育について幅広い相談を受ける。教育全般相談員1名 不登校相談員1名	学校教育	2名配置	2名配置	A 事業内容を達成した（100%）	児童生徒や保護者へ教育に関わる専門的なアドバイスが行われている。また、引きこもりや不登校の改善などの効果が表れている。	相談員の活動に対する周知に努めてはいるものの、認知度が低いと思われる。更なるPRと専門知識の研鑽に努めている。	継続	
少年少女バトミントン教室	スポーツ活動を積極的に進めるために、適切なプログラムに基づいたスポーツ教室を開講し、継続的にスポーツ活動体験させることによって、スポーツの日常化を促進するとともに、スポーツ団体、グループなどの組織育成を図る。	スポーツ振興	年5回 定員 20名	年 5回 15名延 64名	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	指導体制も行き届き、参加者へバドミントンの楽しさを伝えることができた。	年々、参加者が増加している半面、継続活動に繋がりがいない状態である。協会独自で少年団を発定できるようにするなど協会と話し合いが必要。	継続	
少年少女スケート教室（ジュニアスピードスケート教室に名称を変更）		スポーツ振興	定員 20名	年 5回 25名延 111名	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	一人で氷の上に立てなかった子どもも、終了時には一人で立てるようになり、滑ることを楽しんでいた。	スケートシーズンと重なっており指導者の確保が難しい。協会との調整を図り、開催日時などを検討する。	継続	
ジュニアスノーボード教室		スポーツ振興	定員 20名	年5回 27名延 110名	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	用具の調整や安全に配慮するためのルールやマナーの指導を図るとともに、スノーボードの技術が向上した。	学校や報道関係から開催を周知し、参加者を募る。	継続	
ジュニアクロスカントリースキー教室		スポーツ振興	定員 30名	実績なし	E 着手できなかった	年度ごとに実施種目を選択しており、平成27年度は実施しなかった。		未実施	年度ごとに実施事業を選択しているため。

事業名	具体的事業内容	担当 グループ	事業量、目標 達成予定年度	27年度実績	事業達成度	事業の評価、改善事項等	課題、今後に向けての改善事項等	今後の 事業方針	事業方針の内容（未実施・廃止・ 中止の理由、追加・拡大の内容）
ラッコ水泳教室		スポーツ振興	定員 60名	年6回 42名延120名	B 事業内容をほぼ 達成した（80%）	年代に応じ、3回ずつの指導を行い、凝縮された指導内容から上達した子どもも多く、水泳を楽しむ子どもが増えた。	指導者が少なくなってきたことから、指導者の確保が困難になってきている。参加人数の調整など検討が必要。	継続	
アイガモ水泳教室		スポーツ振興	定員 15名	年6回 17名延88名	B 事業内容をほぼ 達成した（80%）	幼児のみの水泳教室を開催し、水慣れから泳法の基礎を教えることができた。最後には、1人だけのびをすることができた子どもがおり成果が出た。	指導者が少なくなってきたことから、指導者の確保が困難になってきている。参加人数の調整など検討が必要。	追加	
サッカー教室		スポーツ振興	定員 50名	年5回 19名延78名	B 事業内容をほぼ 達成した（80%）	小学生低学年を対象にサッカーのルールや技術を習得し、サッカーに興味を持ってもらうことができた。	サッカーの人数も減少傾向にあることから、教室参加者から少年団へ入団するきっかけづくりを図る。	継続	
ベタンク教室		スポーツ振興	定員 20名	実績なし	E 着手できなかった	参加人数が少なく中止した。	学校や報道関係を通じて教室の開催を周知するとともに、ベタンクに興味・関心を持ってもらえるよう本町にいる世界レベルで活躍する選手から指導を受けられる機会とすることで参加者の増加を図る。	継続	
剣道教室		スポーツ振興	定員 20名	年5回 7名延30名	B 事業内容をほぼ 達成した（80%）	剣道の基礎となる動作を習得させることができた。教室終了後に、少年団へ入団する子どもがいた。	学校や報道関係から開催を周知し、参加者の増加を図る。	追加	
幼児体力テスト・運動実技指導	幼児の体力傾向を探り、運動を処方する。	スポーツ振興	町内幼児	体力測定 年2回 春季～8 4名 秋季～83名	B 事業内容をほぼ 達成した（80%）	体力測定の結果を測定した子どもへ配布するとともに、結果を各保育園・所で活用し、体力向上の参考となった。	保育園・所で、それぞれの対象に応じた適切な指導や教材を提供し、子どもの体力向上へ繋げる工夫が必要。	継続	
水泳技能検定	水泳の継続的活動を促進し、技術・体力の向上及びチャレンジする意識の高揚を図る。	スポーツ振興	年2回	年 1回 39名	B 事業内容をほぼ 達成した（80%）	水泳少年団を中心に泳力検定を実施し、個々の水泳技能向上に繋がった。	目標に向かう意識の高揚を図るため、参加する子どもの練習強化や目標を定める工夫をする。	継続	
親子で親しむスポーツ等の実施	親子で参加する運動、スポーツの機会を通して家族間の交流を図る。	スポーツ振興		実績なし	E 着手できなかった	幼児期に水中運動へ親しむ事業を別に開催したため（アイガモ水泳教室）。		廃止	平成28年度は実施しないため廃止する。
スポーツ少年団育成	スポーツ少年団の活動援助と結成促進。	スポーツ振興	18団体	18団体	A 事業内容を達成 した（100%）	昨年度より1団体増加し、18団体となった。	スポーツ少年団の入団数増加だけでなく、指導者育成に対し、講習会の開催等を開催して指導者の資質向上を図ることが必要。	継続	
中3体力講習	中学3年生を対象にトレーニング器具の使用方法やマナーを学ぶとともに、大学講師の専門講話から競技力や体力向上を図る。	スポーツ振興	年5回	年 各5回 21名延87名	B 事業内容をほぼ 達成した（80%）	日赤北海道看護大教授である山本恵志准教授を招聘し、トレーニング理論や体力向上における専門的な知識を学ぶことができた。	大学教授からの専門的な理論や講話を取り入れ、トレーニングに興味が増えるような事業を引き続き実施する。	継続	
高校生トレーニング教室	高校生を対象にトレーニング器具の使用法やマナーを学ぶとともに、大学講師の専門講話から競技力や体力向上を図る。	スポーツ振興	年5回	年 各5回 21名延77名	B 事業内容をほぼ 達成した（80%）	日赤北海道看護大教授である山本恵志准教授を招聘し、トレーニング理論や体力向上における専門的な知識を学ぶことができた。	中3体力講習と同様大学教授を招聘し、より専門性の高い指導を行うことで、競技力向上や運動の習慣化を図る機会にすることができた。	継続	
B&G会長杯町民水泳大会	大会を通して、水泳の普及振興を図るとともに町民の健康・体力の保持増進と相互の親睦交流を図る。	スポーツ振興	年1回	年 1回 62名	B 事業内容をほぼ 達成した（80%）	美幌水泳協会が運営の中心となって大会が開催され、水泳愛好者の記録更新が図られた。	B&G海洋センターを利用する常連者への参加を呼びかけ、水泳愛好者の増加を図る。	継続	
わんぱくスポーツ教室	土曜日の休日を利用して、身体活動を通して異年齢の交流と協調性や創造力を高め、スポーツを楽しむながら健康体力づくりの積極的な取り組みを促進する。	スポーツ振興		実績なし	E 着手できなかった	本事業の実施回数を増やすとともに、スポーツ団体と連携を図りながら多種目の運動が体験出来る通年事業としてスポーツクラブの新規事業と統合したため。（アクティブ・キッズ・ビートスポーツ教室）		廃止	アクティブ・キッズ・ビートスポーツ教室へ統合したため廃止する。
アクティブ☆キッズ・ビートスポーツ教室	生涯にわたって心身ともに健康で豊かな生活を送るために、幼少期における運動へ親しむ基礎を育み、子どもの発育発達へ繋げる。	スポーツ振興	年間事業 月2回	年 37回 31名延758名	B 事業内容をほぼ 達成した（80%）	年間を通じて48種目の運動・スポーツ活動をしながら、身体を動かす楽しさを伝えるとともに、運動の習慣化と体力向上が図られた。	年間多種目の運動へ親しむため、各スポーツ団体と連携を図り、スポーツ体験事業を実施する。	追加	
チャレンジキッズスポーツ教室	発育発達の著しい幼児期に身体を動かすことによって、健康・体力の保持増進を図り、生活習慣や人間形成を身につけさせる。	スポーツ振興	定員 30名	実績なし	E 着手できなかった	文科省の事業で実施しており、平成27年度は実施していないため、事業を中止した。		廃止	今後、文科省の採択を受ける機会がないため、廃止する。

事業名	具体的事業内容	担当グループ	事業量、目標達成予定年度	27年度実績	事業達成度	事業の評価、改善事項等	課題、今後に向けての改善事項等	今後の事業方針	事業方針の内容（未実施・廃止・中止の理由、追加・拡大の内容）
キッズ☆ビートスポーツ教室	発育発達の著しい幼児期に身体を動かすことによって、健康・体力の保持増進を図り、生活習慣や人間形成を身につけさせる。	スポーツ振興	定員 30名	年8回 33名延240名	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	幼児期に遊びや運動を経験させるとともに、身体を動かす楽しさを伝えることができた。	幼児期におけるスポーツ事業も、類似した事業があることから、事業を一本化するとともに、幼児指導における指導者の資質向上を図る必要がある。	継続	
感動体験スポーツ研修	町外から離れ、普段体験できない自然体験活動や異年齢との集団生活を通して、連帯感・責任感・積極性・自立性を養う。	スポーツ振興	定員 36名	年1回 24名	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	親元を離れ、様々な体験と集団生活を通じて、楽しさ、辛さ、忍耐等を養うとともに、親への感謝の気持ちを感じてもらい、人間的に成長するきっかけをつくることができた。	開催日時において、町の事業や大会などと重なり、参加者が減少しているため、日程の調整が必要である。	継続	
おはなしのへや（幼児・児童・父母）	豊かな人間性を育て、読書への関心を芽生えさせるための絵本・紙芝居の読み聞かせを実施する。	図書館	月2～3回 （第1・3・5木曜）	年17回 延107名	A 事業内容を達成した（100%）	予定通り実施できた。	利用者が減少してきており、今後さらなる事業のPRが必要である。	継続	
絵本とあそび！（乳幼児・父母）	乳幼児を対象としたお楽しみ会、読み聞かせ会を行う。	図書館	月2回 （第2・4木曜）	年23回 延223名	A 事業内容を達成した（100%）	予定通り実施できた。	多くの町民に利用して欲しい。	継続	
保育園読み聞かせ巡回	ボランティアの協力を得て、保育園において読み聞かせの巡回を行う。	図書館	月2回	町内2カ所 年19回	A 事業内容を達成した（100%）	予定通り協力を得て実施された。		継続	
子ども映画会	映画鑑賞を通じて、日本及び世界の文学を理解するとともに、親子のコミュニケーションの素材を提供する。	図書館	年12回	年12回 延101名	A 事業内容を達成した（100%）	予定通り実施できた。	利用者が減少してきており、定期開催から要望に応じた随時開催へ切り替える。	継続	
おはなしと工作の広場	学校週5日制に伴い、子ども達がお話や工作を通して手作りの楽しさや物語の世界にふれる場として教室を実施する。	図書館	年4回	年4回 延15名	A 事業内容を達成した（100%）	予定通り実施できた。	利用者が減少してきており、今後さらなる事業のPRが必要である。	継続	
手づくり絵本講習会	手づくり絵本を作る楽しさを普及するため、講座を実施する。	図書館	年1回	年1回 11名	A 事業内容を達成した（100%）	予定通り実施できた。	多くの町民に利用して欲しい。	継続	
学級文庫	学級単位で団体文庫を設置する。	図書館	市街3小学校	市街3小学校	A 事業内容を達成した（100%）	予定通り実施できた。		継続	
おはなし文庫	1セット55冊として期間中、月1回巡回配本する。	図書館	季節保育所 年12回	季節保育所 年12回	A 事業内容を達成した（100%）	予定通り実施できた。		継続	
幼稚園文庫	幼稚園児を対象とした図書を毎月1回配本する。	図書館	幼稚園2カ所 年12回	幼稚園2カ所 年12回	A 事業内容を達成した（100%）	予定通り実施できた。		継続	
読書感想文コンクール	児童生徒の読書力、表現力の向上を目的として小中学校及び学校図書館協会との連携のもとに感想文を募集する。	図書館	年1回	年1回	A 事業内容を達成した（100%）	予定通り実施できた。		継続	
児童生徒作品展	展示機能を活用し、学校の協力を得て児童生徒の作品の発表の場を提供する。（町内3小学校の輪番）	図書館	年1回	年1回	A 事業内容を達成した（100%）	予定通り実施できた。		継続	
ユニットライブライリー	図書館と地域を結ぶ拠点として、毎週土曜日午後には開館する。	図書館	町内2カ所	町内2カ所	A 事業内容を達成した（100%）	予定通り実施できた。	多くの町民に利用して欲しい。	継続	
図書館ボランティアの日	図書館ボランティアの日を制定し、図書館内でのボランティア活動の場を設ける。	図書館	年12回	年12回 延55名	A 事業内容を達成した（100%）	予定通り実施できた。	ボランティアの拡大を図りたい。	継続	

事業名	具体的事業内容	担当グループ	事業量、目標達成予定年度	27年度実績	事業達成度	事業の評価、改善事項等	課題、今後に向けての改善事項等	今後の事業方針	事業方針の内容（未実施・廃止・中止の理由、追加・拡大の内容）
ブックスタート・ブック2(セカンド)	10ヵ月健診時に乳幼児への読み聞かせの大切さや、その方法を説明するとともに絵本などを配布する。また、小学生1年生に絵本をプレゼントする。	図書館	ブックスタート 年12回 ブック2 年1回3小学校	ブックスタート 年12回127名 ブック2 年1回158名	A 事業内容を達成した(100%)	予定通り実施できた。	28年度より3歳児を加えて「子ども未来絵本036事業」として絵本のプレゼント及び絵本紹介パンフレットの配布を行う。	拡大	10ヵ月健診時に乳幼児への読み聞かせの大切さや、その方法を説明するとともに絵本などを配布する。(ブックスタート)3歳児健診時に絵本をプレゼントし、絵本紹介パンフレットを配布しアドバイスを行う。(ブック2)新小学校1年生に絵本をプレゼントする。(ブック3)
絵本展示	子ども読書週間に合わせ絵本の展示・紹介を行う。	図書館	年1回	年1回	A 事業内容を達成した(100%)	予定通り実施できた。		継続	
夏休み子ども自然教室	動植物の野外観察と絵本づくりを通して、身近な自然に親しんでもらう。	博物館	年1回 定員 10名	年 0回 延べ 0名	E 着手できなかった	実施時期が、他の事業も集中していることもあり、実施しなかった。	定期的には実施せず、必要に応じて実施したい。	中止	定期的には実施せず、必要に応じて実施する。
こどもの日無料開放	柏餅配布、せんべい焼き体験、工作教室などを通じて、身近に博物館を感じてもらおう。	博物館	年1回	年 1回 延べ 793名	A 事業内容を達成した(100%)	事業内容は充実していた。	内容充実に努めたい。	継続	
冬季作品展	展示機能を活用して、学校の協力を得て、町内の小中学校の児童生徒の作品を紹介する。	博物館	年1回	年 1回 入館者として 881名	A 事業内容を達成した(100%)	事業内容は充実していた。	内容充実に努めたい。	継続	
学校教育との連携事業(旭小学校自然体験事業)	先生と学芸員との連携による自然体験事業の実践。学校との連携のあり方を考える。	博物館	年10回程度	年 7回 延べ 299名	A 事業内容を達成した(100%)	学校教育と連携した体験授業依頼が年々増えており、充実している。	内容充実に努めたい。自然体験に限定せず、H28から歴史体験、芸術体験も含めた事業としたい。かつ、旭小に限らず、全小中学校を対象にした事業名「町内小中学校との連携し事業」・内容としたい。	継続	
自然講座(博物館講座「自然編」)	身近な自然をテーマにした講演会・観察会を通して、美幌の自然の面白さを知ってもらう。	博物館	年10回程度	年 12回 延べ 278名	A 事業内容を達成した(100%)	事業内容は充実していた。	内容充実に努めたい。H28より、博物館講座(自然編、歴史編、芸術編)と事業名称を変更したい。	継続	
子ども工作教室	簡単な電子工作を行い、工作する面白さを知ってもらう。	博物館	年 1回 定員 10名	年 0回 延べ 0名	E 着手できなかった	実施時期が、他の事業も集中していることもあり、実施しなかった。	他にモノ作り講座、フチ工房など工作体験講座があるため、子ども工作教室は、それらに統合させて効率化を図りたい。	中止	
美幌ふるさと祭り	祭りの出店、イベントから暴力団(関係者)を排除し、青少年の健全育成を促進する。	まちづくり		子供横丁設置。会場内を禁煙とし、子供の安全を確保。	A 事業内容を達成した(100%)	暴力団を排除したお祭り、子供達が安心して楽しめ、子供横丁の設置によりお金を使わず気軽に子供達が楽しめるお祭りができた。	24回もの回を重ね、当初目的である暴力団の資金源根絶・青少年健全育成の意識が薄れつつあり、出店者及び来場者に再度呼びかけていく必要がある。	継続	
1-4-2 青少年教育施設の整備									
児童館機能を有する子ども拠点施設の整備(コミュニティセンターの充実)	コミュニティセンターに児童館機能を設け、子育て、発達を移し、児童センターを併設して、子どもをはじめ親子の居場所づくりに重点的に取り組む。	児童支援		継続	A 事業内容を達成した(100%)	取り組めている。	内容充実に努めたい	継続	
1-4-3 子どもを取り巻く有害環境対策の推進									
インターネット等利用環境に関する啓発	インターネットやスマートフォン等の正しい使い方やルール、マナーについて啓発する。	社会教育		研修会を1回実施 参加者25名	B 事業内容をほぼ達成した(80%)	NTTドコモから講師を招き、子どもたちがスマホ・携帯電話を安全に使うためのルールやマナーについて学んだ。	インターネットやスマートフォンについては短いスパンで新しい技術が登場し、合わせて課題・問題も生じていることから、継続的な取組が必要である。	継続	
少年少女非行防止運動標語	町内の小中高校生を対象に、防犯意識の高揚と青少年の非行防止を目的とした標語の募集を実施し、入選作品10作品を表彰する。	まちづくり		小学生対象 225点応募	A 事業内容を達成した(100%)	非行防止の意識を高めることができた。	対象学生全てが応募する様工夫が必要。	継続	
薬物、喫煙防止等活動の推進	薬物乱用や喫煙防止のための教育、指導活動を推進する。【再掲1-2-3】	保健福祉							

事業名	具体的事業内容	担当グループ	事業量、目標達成予定年度	27年度実績	事業達成度	事業の評価、改善事項等	課題、今後に向けての改善事項等	今後の事業方針	事業方針の内容（未実施・廃止・中止の理由、追加・拡大の内容）
2 すべての子どもの育ちを支える環境の充実									
（１） 要保護児童へのきめ細かな取り組み									
2-1-1 ひとり親家庭の自立支援									
ひとり親への相談体制の整備	増加傾向にあるひとり親家庭に対し、自立支援、就業支援、相談体制の充実と福祉サービスの情報提供を推進する。	保健福祉		随時対応	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	相談があった場合、随時対応している。	今後も相談があった場合、随時対応していく。	継続	
2-1-2 障がい児施策の充実									
子ども発達支援センター	発達に心配のある児童、障がいを有する児童に対し、通園の方法により指導を行い、育成を助長する。	児童支援	1力所 定員1日15名	1力所 59名	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	療育室が不足しているため新規の利用希望者の回数を制限することがあった。	利用者が希望する通所回数の確保。	拡大	療育室の確保
幼児ことばの教室	幼児の健全育成と福祉の増進を図り、心身ともに健やかに育成されるよう援助し、必要な指導を行う。	児童支援	1力所 定員20名	1力所 40名	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	入室希望者を全員受け入れることができたが、通室児の回数を制限していた。	利用者が希望する通所回数の確保。	拡大	人員と指導室の確保
移動総合相談	専門機関による発達遅滞児の相談、発達状態の確認、福祉制度実施のために必要な判定の機会の確保を図る。【再掲1-21】	保健福祉							
2-1-3 児童虐待防止対策の充実									
児童虐待防止対策の充実（関連機関の連携）	児童虐待を未然に防ぐとともに虐待に遭った子どもを守るため、関連機関の連携を密にし、広報活動などを行う。	児童支援		継続	A 事業内容を達成した（100%）	必要に応じてケース会議等情報共有、または、見守りを行う。	各関係機関との連携を十分行う	継続	
（２） 子育て支援のネットワークづくり									
2-2-1 子育て親子の交流推進									
しゃきとプラザの活用	プレイルームを子育て中の親の居場所や相談の場として有効活用する。【再掲1-1-2】	保健福祉							
ブレマクラス（妊娠中からの講座）	妊娠中から子育ての環境づくりについて学習するとともに、仲間づくりを行い、子育ての孤立化を防止する。	保健福祉		9回	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	多くの妊婦に参加していただけるよう、実施内容の検討する	開催時間帯を午後から午前に変更する	継続	
両親教室（妊娠中からの講座）	夫婦がともに子育てについて学習することにより、父親の育児参加の推進を図る。	保健福祉		3回	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	参加者の満足度は高いが、参加率は低い現状にある。	参加しやすい時間帯や曜日を検討。参加しやすい内容を検討する	継続	
フレッシュママセミナー	4ヶ月～1歳までの子どもとその母親を対象として、子育てに関する今日的課題（食事や遊び等）について学ぶ講座を開設し、親子のつながりや他の親子との交流を深める機会を提供する。	社会教育		延べ24組50名 夏期 15組32名 冬期 9組18名	A 事業内容を達成した（100%）	子どもの写真の撮り方を町内写真館に講師を依頼するなど新しいメニューを実施することができた。冬の参加者の拡大が課題である。	夏期は定員まで参加者があるが、冬期は外にでづらいこともあり、参加者が若干少なくなっている。効果的な広報・周知で対応していきたい。	継続	
2-2-2 子育てサポーターの養成									
子育てサポーターの養成（サポーターの養成講習会、登録、活用）	子育て親子を支援する人材の発掘と養成のため、子育てサポーター養成講習会等を実施するとともに、登録し活用する。	児童支援	平成28年度 登録者22名	2名登録	C 一定程度実施できた（50%）	3名の申し込みはあったが、全講習を受けられた方は2名というので、2名しか登録してもらえなかった。	登録者の増に向けて、力を入れていきたいのだが、なかなか人材確保は難しくなっている。	継続	
（３） 子どもの安全の確保									

事業名	具体的事業内容	担当 グループ	事業量、目標 達成予定年度	27年度実績	事業達成度	事業の評価、改善事項等	課題、今後に向けての改善事項等	今後の 事業方針	事業方針の内容（未実施・廃止・ 中止の理由、追加・拡大の内容）
2-3-1 子育てを支援する生活環境の整備									
子どもたちを見守る活動の推進	「おはよう」「こんにちは」「車に気をつけて」など、地域の子どもたちに声をかけることや青色回転灯装備車両による見守り活動を行う。	社会教育		子どもみまもり隊登録者数2,741名	B 事業内容をほぼ達成した（80％）	明和大学学生を中心にみまもり隊登録者を増やすことができた。	紛失に伴う氏名重複や転出など、実人数を把握する必要がある。	継続	
2-3-2 子どもの安全を確保するための活動の推進									
交通安全教室の開催	小中高校、幼稚園、保育所、保育園などを対象に交通安全指導を行う。	まちづくり		27回 2,202人	A 事業内容を達成した（100％）	生涯教育として、交通安全教育を継続実施し啓発普及を図った。	中高生については、学校の授業に取り入れる余裕が無く、不十分である。	継続	
交通安全ポスター・作文コンクール	交通安全意識の啓発のため、町内小中学生からポスター・作文を募集し、作品を展示する。	まちづくり		・ポスター 小学生326点 中学生103点 ・作文 中学生 121点	A 事業内容を達成した（100％）	家庭からの交通安全意識の助長。作品展示・入選作品のカレンダーの作成により啓発を行い、交通安全意識の高揚を図った。	児童・生徒数の減少により出品数が減っているが、今後も継続実施していく。	継続	
消防チビッ子大会	子どもたちが消防署に親しみ、防火に対する意識を高め、遊びを通じて火遊びなどを防止し、安心・安全なまちづくりを行う。	消防署		年1回 約400名参加	A 事業内容を達成した（100％）	消防への関心と、防火に対する意識を高めており達成している。	マンネリ化しないように新たな事業内容を検討していく。	継続	
2-3-3 子どもを犯罪等から守るための活動の推進									
子どもの安全確保の充実	登下校時における児童生徒の安全を確保するため、不審者情報を携帯電話のメールなどにより周知する。	学校教育		継続	A 事業内容を達成した（100％）	教育委員会が把握した情報が速やかに多くの方へ周知出来、児童生徒の安全確保に繋がっている。	導入当初からのシステムのため、ソフトの更新が必要。（使用できるパソコンが限られているため）登録者数の更なる拡大を図る。	継続	
子ども110番活動の充実	子どもを犯罪から守り、被害を最小限にするため、トラブルに巻き込まれそうになったときに助けを求められる場を確保する。	まちづくり		0件	C 一定程度実施できた（50％）	各自自治会の防犯部長が登録世帯ヘステッカーの更新を呼びかけ、事業の継続に努めている。登録世帯名簿の整理を行ったが新規登録世帯がいなかった。	新規登録世帯の募集。 既に登録済み世帯の情報更新。 子供達への周知。	継続	
（4） 被害に遭った子どもの保護の推進									
2-4									
児童虐待防止対策の充実（関連機関の連携）	児童虐待を未然に防ぐとともに虐待に遭った子どもを守るため、関連機関の連携を密にし、広報活動などを行う。【再掲2-1-3】	児童支援							
3 仕事と子育ての両立の推進									
（1） 保育サービスの充実									
3-1-1 通常保育の充実									
通常保育事業	保護者の労働又は疾病などにより、家庭において児童を保育することができないと認められる場合に、保護者に代わり、保育園（所）での保育を実施する。	児童支援	常設	定員 120人	実績 103人（最大在籍時）	B 事業内容をほぼ達成した（80％）	年々児童数は減少しているが、保育に欠ける児童を対象に保育所（園）での保育を実施できた。	1・2歳児の保育希望者増加傾向への対応が課題である。	継続
保育園開放事業	乳幼児の子どもとその親に保育園を開放し、遊びの場を提供することにより、子育て家庭への支援を行う。	児童支援		2カ所 年6回	2カ所 各保育園年6回	A 事業内容を達成した（100％）	予定通りの園開放事業を実施でき、保育園児との交流、紹介ができて良かった。	保育園とも話し合い、交流を進めていきたい。	継続
放課後児童健全育成事業（学童保育所）	保護者が、昼間就労などにより保育ができない小学生の児童を対象に、適正な遊び及び生活の場を与え、児童の健全育成を図る。【再掲1-4-1】	児童支援							

事業名	具体的事業内容	担当グループ	事業量、目標達成予定年度	27年度実績	事業達成度	事業の評価、改善事項等	課題、今後に向けての改善事項等	今後の事業方針	事業方針の内容（未実施・廃止・中止の理由、追加・拡大の内容）
3-1-2 一時預かりの充実									
一時預かり事業	保護者のパート就労などや疾病、入院などにより、緊急・一時的に保育を必要とする児童の預かりを行う。	児童支援		実績299日 子育て支援センター 町立保育園	A 事業内容を達成した（100%）	保育士の確保が重要と感じる。利用者には、町のみならず民間、団体等の事業も周知している。	保育士の確保。	継続	
学童保育一時預かり事業	緊急・一時的に保育を必要とする小学生の児童の預かりを行う。	児童支援		未実施	E 着手できなかった	受入体制の整備が困難なため実施することが出来なかった。	緊急ではないが、急ぐ事情の場合は優先して早急に保育を行った。	継続	
妊婦健診時一時預かり事業	第2子以降の出産の場合、町外の産婦人科医院(病院)に通院するとき、託児する親族がいない場合に、子育て支援センターで一時的に上の子の預かりを行う。	児童支援		延39日(12人)	A 事業内容を達成した（100%）	初めての方、妊婦さんに声をかけをし、サービスを知らせ、安心して健診を受け手もらえたと思う。	今後も親達に周知し、安心して健診にかけられるようにしていきたい。	継続	
3-1-3 多様な保育施策の活用									
多様な保育施策の充実・促進	事業内保育施設や民間保育所などの認可外保育施設に対し、保育内容の充実のための助言や指導に努める。	児童支援		実施	A 事業内容を達成した（100%）	道で実施する立入調査に同行し指導を実施している。		継続	
へき地保育所の運営	上美幌、福住及び田中地区のへき地保育所を、1月を除く11ヵ月間運営し、へき地の保育需要に対応して保育を実施する。	児童支援		定員150人 実績 49人	A 事業内容を達成した（100%）	各保育所、毎年10人以上の児童を受入し保育を実施できた。		継続	
季節保育所の運営	毎年4月から12月までの9ヵ月間、農繁期などにおける就労形態に応じ、地域の保育需要に対応して保育を実施する。(中央保育所)	児童支援		定員100人 実績 6人	A 事業内容を達成した（100%）	平成25年度末で美園保育所を休止し中央保育所1カ所での運営となり保育を実施している。	利用者の減少に伴い、平成28年度で廃止予定とした。	廃止	平成28年度で廃止とする。
(2) 男性を含めた働き方の見直しと父親の子育て参画の促進									
3-2 父親の子育て参画									
父親の子育て参画の啓発	父親が子どもと過ごす時間を設け、母親がリフレッシュする時間を確保するとともに男性の子育て参加を促進する。	保健福祉		3回	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	両親学級で実施。		継続	
両親教室(妊娠中からの講座)	夫婦がともに子育てについて学習することにより、父親の育児参加の推進を図る。【再掲2-2-1】	保健福祉							
(3) 放課後児童対策の充実									
3-3 放課後児童対策の充実									
放課後児童健全育成事業(学童保育所)	保護者が、昼間就労などにより保育ができない小学生の児童を対象に、適正な遊び及び生活の場を与え、児童の健全育成を図る。【再掲1-4-1】	児童支援							
学童保育一時預かり事業	緊急・一時的に保育を必要とする小学生の児童の預かりを行う。【再掲3-1-2】	児童支援							
コミュニティスクールの開設	あらゆる世代がふれあい、語り合い、学び合う活動を通して、子どもたちを地域全体で育てようとする交流の場を開設する。	社会教育		3小学校区で開設	B 事業内容をほぼ達成した（80%）	各校区で主体的な取り組みを進めていただいた。各小学校区を中心に地域の子どもは地域で育てるという意識の醸成につながっている。	事業内容の充実を社会教育Gと情報交換をしながら進める。	継続	